

黄マーカー：浄土論

太字赤字 ：聖人引文比較差異箇所

※：感想、疑問

■『解説浄土論註』改訂版

善巧摂化とは、

是の如く菩薩、奢摩他・毗婆舍那、**広略に修行して柔軟心を成就す。**

柔軟心とは、謂わく、広略の止観相順じて修行して、不二の心を成ぜるなり。譬えば水を以て影を取るに、清と静と相い資けて成就するが如きなり。

実の如く広略の諸法を知る。

如実知というは、実相の如くして知るなり。広の中の廿九句、略の中の一句、実相に非ざること莫きなり。

是の如く巧方便廻向を**成就せり。**

是の如くというは、前後の広略皆実相なるが如しとなり。

実相を知るを以ての故に、則ち三界の衆生の虚妄の相を知るなり。衆生の虚妄なるを知らば、則ち真実の慈悲を生ずるなり。

真実の法身を知れば、則ち真実の帰依を起すなり。

**慈悲と帰依との巧方便は下に在り。**

※ 「成就」の主体は、法蔵菩薩。

■真宗聖典 第二版

善巧摂化とは、

「是くの如きの菩薩は、奢摩他・毘婆舍那、**広略修行成就して柔軟心なり**」とのたまえり。

「柔軟心」は、謂わく、広略の止観、相順じ修行して不二の心を成ぜるなり。譬えば水を以て影を取るに、清と静と相資けて成就するが如しとなり。

「実の如く広略の諸法を知る」**とのたまえり。**

「如実知」とは、実相の如くして知るなり。広の中の二十九句、略の中の一句、実相に非ざること莫きなり。

「是くの如き巧方便回向を**成就したまえり**」**とのたまえり。**

「是くの如き」というは、前後の広略、皆、実相なるが如きなり。実相を知るを以ての故に、則ち三界の衆生の虚妄の相を知るなり。衆生の虚妄を知らば、則ち真実の慈悲を生ずるなり。

真実の法身を知るは則ち真実の帰依を起すなり。

**慈悲と帰依と巧方便とは下に在り。**

※ 「慈悲」「帰依」「巧方便」の三つとする。「下」とはどこか。

■『解読浄土論註』改訂版

何者か菩薩の巧方便廻向。

菩薩の巧方便廻向というは、謂わく、説くところの礼拝等五種の修行をして集むる所の一切の功德善根をして、自身の住持の樂を求めず、一切衆生の苦を抜かんと欲うが故に。一切衆生を撰取して、共に同じく彼の安樂仏国に生ぜんと作願せり。是れを菩薩の巧方便廻向成就と名づく。

■真宗聖典 第二版

「何者か、菩薩の巧方便回向。

菩薩の巧方便回向は、謂わく、礼拝等の五種の修行を説く。所集の一切の功德善根は、自身住持の樂を求めず、一切衆生の苦を抜かんと欲すが故に、作願して一切衆生を撰取して、共に同じく彼の安樂仏国に生ぜしむ。是れを「菩薩の巧方便回向成就」と名づく」とのたまえり。

王舎城所説の無量寿經を案ずるに、三輩生の中に、行に優劣有りと雖も、皆無上菩提の心を発せざるは莫し。

此の無上菩提心というは、即ち是れ願作仏心なり。願作仏心は即ち是れ度衆生心なり。度衆生心は即ち是れ衆生を撰取して有仏の国土に生ぜしむる心なり。是の故に彼の安樂浄土に生ぜんと願ずるは、要ず無上菩提心を発するなり。

若し人無上菩提心を発せずして、但だ彼の国土の樂を受けること間なきを聞いて、樂の為の故に生を願ずるも亦当に往生を得ざるべきなり。是の故に自身住持の樂を求めず、一切衆生の苦を抜かんと欲うが故に、と言えり。

住持樂というのは、謂わく、彼の安樂浄土は阿弥陀如来の本願力の為に住持せられて、樂を受くること間なきなり。

王舎城所説の『無量寿經』を案ずるに、三輩生の中に、行に優劣有りと雖も、皆無上菩提の心を発せざるは莫けん。

此の無上菩提心は即ち是れ願作仏心なり。願作仏心は即ち是れ度衆生心なり。度衆生心は即ち是れ衆生を撰取して有仏の国土に生ぜしむる心なり。是の故に彼の安樂浄土に生まれんと願ずるは、要ず無上菩提心を発するなり。

若し人、無上菩提心を発せずして、但、彼の国土の受樂無間なるを聞いて、樂の為の故に生まれんと願ずるは、亦当に往生を得ざるべきなり。是の故に「自身住持の樂を求めず、一切衆生の苦を抜かんと欲すが故に」と言えり。

「住持樂」とは、謂わく、彼の安樂浄土は、阿弥陀如来の本願力の為に住持せられて、樂を受くること間なきなり。

凡そ廻向の名義を釈せば、謂わく、己が所集の一切の功德を以て一切衆生に施与して、共に仏道に**向かわしむる**なり。

凡そ回向の名義を釈せば、謂わく、己が所集の一切の功德を以て、一切衆生に施与して、共に仏道に**向かえしめたまう**なりと。

**巧方便**とは、謂わく、菩薩願ずらく、己が智慧の火を以て一切衆生の煩惱の草木を焼かんに、

「**巧便**」は、謂わく、菩薩願ずらく、「己が智慧の火を以て一切衆生の煩惱の草木を焼かんと。

若し一衆生として仏に成らざるに有らば、我れ仏に作らじと。

若し一衆生として成仏せざるに有らば、我れ、仏に作らじ」と。

而るに**彼の衆生**未だ尽く成仏せざるに、菩薩已に自ら成仏するは、譬えば火燵 聴念反 もて一切の草木を摘 聴歴反 みて、焼いて尽くさしめんと欲うに、草木未だ尽きざるに火燵已に尽くるが如し。

而るに**衆生**、未だ尽く成仏せざるに、菩薩、已に自ら成仏せんは、譬えば火燵 聴念の反して、一切の草木を燵 聴歴の反んで「**燵**」の字 他曆の反。排除なり。とる。つむ。おく。たく。」焼きて尽くさしめんと欲するに、草木、未だ尽きざるに、火燵、已に尽きんが如し。

其の身を後にして身を先とするを以ての故に、**巧方便**と名づく。

其の身を後にして、身を先にするを以ての故に、「**方便**」と名づく。

此の中に方便と言うは、謂わく、**一切衆生を撰取して共に同じく彼の安樂仏国に生ぜん**と**作願す**。彼の仏国は即ち是れ畢竟成仏の道路、無上の方便なり。

此の中に「方便」と言うは、謂わく、**作願して一切衆生を撰取して、共に同じく彼の安樂仏国に生ぜしむ**。彼の仏国は、即ち是れ畢竟成仏の道路・無上の方便なり。

※ 巧方便を「巧便」「方便」と読むのはなぜか。